

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ) ・ ( 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホーム かたらい 2階	評価実施年月日	平成19年10月15日～平成19年11月5日
評価実施構成員氏名	畠山 大範・網島 留美・前田 敏和・須田 直美・斉藤 しのぶ・桂 知丈		
記録者氏名	畠山 大範	記録年月日	平成19年11月11日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p> <p>1. 理念の共有</p>			
<p>1 地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>当ホームの理念(家族と共に安心できる環境の中で安らぎと自由を感じられるようその人の気持ちや人とのつながりを大切に「その人らしいあり方」を目指します)を常に心構えとし管理者と各スタッフとが一緒に理念に向けてケアすることを目指している。</p>		
<p>2 理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>ホームの各ユニットの廊下の部分に掲示し、管理者と共にスタッフも共有の理念を共有しネームプレートの裏に記載したり、日頃の申し送りや会議の中等でも話し合う等し日常的に取り組む再確認できるように努めている。</p>		
<p>3 家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>入居の時から、理念に関して説明し御家族と話をする際に心掛けながら話をしている。また、ご家族の他、地域の方々には近隣のサロン等に参加しその中で話をし理解してもらえるように努めている。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>			
<p>4 隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>外出、散歩の際に地域住民の方々とお会いした際は、お互いに挨拶や声を掛けあえる様な関係作りに努めたり、近所の農家の方から菜園のアドバイスを頂いたり、近隣のグループホームとも情報交換などをする事もある。</p>		
<p>5 地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>開設当初から、町内会の入会を進めていたが、運営推進委員の協力も頂き、現在、近隣の町内会長様と連絡を取り合いながら町内会入会の可否の返事を待っている。また、秋祭りなどを行い近所の方々や地域包括の職員の方にも参加して頂いている。</p>		<p>町内会に入会後は、町内会の行事や清掃活動などを積極的に参加していき馴染む関係作りをしていきたい。</p>
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>近隣のサロンに参加した際に認知症の講和を行ったり、地域の方から依頼があり、1月28日に認知症サポーター養成講座を開催する予定がある。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価、外部評価の意義、内容を理解しその結果を踏まえ、ケアの質の向上に向けて今年は菜園作りやホーム敷地内での秋祭り等を行っている。		今後も外部評価での結果も踏まえて改善課題として取り組んでいく。
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回運営推進会議を開催しており、会議の中で出た意見を基にケアの質の改善を行っている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	市役所の介護保険課の職員に運営上の疑問点等を確認する事を行っている。また、地域包括の方もグループホームの行事、家族会にも参加して頂き助言も頂いている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	研修の参加や資料をファイルしすぐ確認できるようにしている。法人内に権利擁護センター「ばあとなあ」に登録している職員が勤務しているので、何かあればすぐ連絡できる体制を作っている。権利擁護については会議内でも話し合っている。		現在、成年後見制度を利用している利用者様はいないが今後、利用するケースもあるので随時、勉強会を開催していく。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	各ユニットに権利擁護・虐待防止のコンプライアンスルール(全国認知症グループホーム協会より)の掲示をし、各スタッフの目の届くようにし日常的に防止に努め、日常の会話でも起こりうる可能性があることをスタッフ間でも話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、書面の読み合わせを行い十分説明し理解できるように行っている。又、日常生活面で変化がある時(長期入院時)には、御家族が不安にならない様に話をその都度している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居の際に御家族に渡す書類等にも苦情の相談や受付に関しての情報を渡し、インフォメーションボードにも記載し御家族にお知らせしている。また、ホーム玄関に意見箱を設置し投函がある場合はその都度検討しホーム掲示板に公表していく。又、その他個々にご意見や苦情がある場合は管理者、ホーム会議にて報告している。		
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	金銭管理などは、その都度御家族報告し確認して頂いている。又、健康状態や暮らしぶりなどを各担当者から一ヶ月に一回御家族に報告している。		
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議の中で報告し、会議議事録を御家族に送付して定期的に報告している。又、御家族満足度調査を行っている。ご意見箱等に投函があった場合は内容を検討しホーム内にて公表している。12月には家族会の開催予定。		
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員用のご意見箱を設置し、内容を業務改善委員会で検討後、管理者に報告しスタッフ会議やホーム会議の中で報告、相談している。また、随時、個人面談等も行っている。		
17 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	会議の中でも、管理者からスタッフに相談、確認を行って、利用者様の生活状況の応じた時間の確認・調整を行っており、市役所の担当課にも必要時、各ユニットの職員配置等の確認をした上でフロア間で協力しあっている。		
18 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	御家族満足度調査の結果の中でもご意見も含め、管理者の意向を踏まえて、職員の異動を決めている。又、十分な引継ぎができるよう、勤務が重なるような体制をつくり、常に異動等による影響を考え、入居者の状態を把握しその変化に対応出来る様に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常に人材育成を考え、ホーム内外の研修に参加する機会を設けているほか、日常的なケアの現場で具体的な指導も行っている。		
20 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	管内のグループホーム間で情報交換などを行い、ネットワーク作りに努めている。また、交換実習を行う体制作りも進めている。		
21 職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	組織的に個々のスタッフの状態を把握し、話し合いなどを行い、ストレスや悩みを把握する事に努めている。		コーチング研修があれば参加し、更なる技術の向上に努めていきたい。
22 向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	人事考課(目標設定シート)などを利用し、個々の目標を明確にし、必要時、助言・指導しながら実態の把握に努めている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	相談時から、入居生活に至るまでの不安な事などを、ゆっくり話しが出来る環境作りをしている。		
24 初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	入居相談から、家族の支援を念頭に置き、的確なアドバイスが出来るように、十分な時間をかけ、話しを聞く機会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御本人や御家族から相談を受けた際、困っている内容を聞き、自分達が提供できるサービスばかりではなく、状態に応じた対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	ホームを見学して頂き、スタッフや施設の様子を知って頂き、御本人・御家族が納得できる機会を設けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	理念に基づいて、安らぎと自由を与えられるよう常に一人一人に寄り添い、同じ時を過ごすように努めている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族が訪問される時、または必要に応じて、電話等で日常の本人の様子を伝え、情報の共有に努め、一緒に本人を支える環境作りをしている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族等が訪問の際、居室などでゆっくり関われる環境作りをしている。		家族会を通しスタッフと共に活動し楽しめる企画や環境作りに努めていく。
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	個々の今までの生活習慣をふまえ、友人等が訪ねて来られる際、ゆっくり話し合える環境作りや必要時には、いきつけの店など(スーパー・歯科)に行ける様努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	今までの生活習慣を考慮しながら、共同生活での役割、あるいは、利用者同士の関係づくり、個性や相性をふまえ、入居生活の環境作りを行っている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	病院での入院生活になった場合でも、訪問し、顔を見せにいたり、ホームに来れたり出来るようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式を活用しながら、本人の希望・意向の把握に努めている。また、日常会話や表情から本人の気持ちを把握出来るように努めている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーを考えながら、本人や家族から、生活歴を聞き、これまでの暮らし方を伝えるように努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	排泄チェック表を用いながら、一日の生活リズムを考慮して、本人の生活を支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアプランを基に、一人一人の本人の状態をどうとらえながら確認し進めている。		予定表を作成し用いて進めている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	定期的に日常的なカンファレンス等で修正、見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日常の介護記録等の情報を共有し、必要時、カンファレンスをして、介護記録を活用出来る様に努力している。		11月21日に勉強会開催予定。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	看護師の訪問などで入院時の支援や早期退院への支援など、御本人・御家族の要望に対応出来る様に努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	年2回の防災訓練などに近隣の消防署の協力のもとで行うなど、地域資源の活用に努めている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	フットケアやボランティアサークルを受け入れを行い、他のサービスの利用の支援を進めている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に参加して頂きながら、食事会や行事にも協力して頂けるよう、関係づくりに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	連携医療機関への定期受診、医師の訪問など必要時には、医療処置などが行えるよう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	一人一人の状態に応じ、診断、治療が受けられる様、かかりつけ医と相談、アドバイスをさせていただいている。		
45 看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護師がホームに来て、日常的な健康管理を行い、ケアスタッフと情報交換や情報の共有し支援している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時、御家族、御本人に病状の説明や入院期間を説明を受け、退院後の生活援助が出来るように、入院先へ職員が見舞いに行くなどし、早期退院に向けて、病棟看護師も含めて、連絡体制を密にしている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時、御家族・御本人の意思・意向を確認しながら、その都度状態の変化があった時は、意志・意向の変化がないか確認をして、管理者を含めて、方針を確認する。		随時、ご本人の意思や御家族の意思、意向を確認していく。
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	御本人や御家族の意思・意向を随時確認し、状態の変化に応じて、医師・看護師・ホームスタッフ連携をとり、安心して終末期を過ごせるように相談している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>現段階では、他のグループホームや自宅へ移り住む事例はないが、今後、このような場合は、情報を共有し、本人の身体状況やケア状況を伝え、連携を図れる体制を作っている。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>知り得た情報を、他の御家族や外来者に話さない事は当然の義務であり、日常のケアでも声がけなどの内容にも、注意している。</p>		
<p>51 利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>日常生活の中で、本人が、自己決定出来るような声がけを行い、個々にあった方法で選択できるよう支援している。</p>		
<p>52 日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員の時間の流れではなく、入居者の生活リズムを大切に過ごるように支援はしている。情報の共有ができる体制を作っている。</p>		<p>御本人との信頼関係作りを今後も努め、御本人の気持ちに添った事が出来るように支援していきたい。</p>
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>定期的に、または、個々にホームへ出張の美容師が来てくれるなど、一人一人の状態に合わせて、化粧品・道具をそろえて対応している。</p>		
<p>54 食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>嗜好調査や家事で、出来る事、出来ない事を把握した上で、場面場面に合わせ、調理、後片付けなど行っている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。</p>	本人の好みはもちろん把握し、日常的に食事以外でも取り入れて、提供できるように努めている。		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	排泄パターン(リズムや仕草)を把握し、声かけ、誘導で、排泄を試みている。		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>	本人の意向、身体状態を確認しながら、ゆっくり入浴できるように、日々本人、職員で相談しながら実施している。		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。</p>	生活リズムを整え、就寝や休息に向けて、本人と相談しながら、穏やかに過ごせるように努めている。(不眠時などは、ホットミルクなどを飲むなどの工夫をしている。)		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。</p>	一人一人の生活歴を考慮しながら、個々が持っている力が発揮できるような支援をし、充実感が持てるように支援している。		
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	家族と相談しながら、本人の使っていた財布をもってきてもらうなど、本人の状態にあった支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	天候、気温をみて、外出や散歩が出来るように、声かけ、援助をしている。(ADLの状態に関わらず、外出の機会を設けている。)		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族の協力を得て、昔からのなじみの場所などの情報を得ながら、外出の機会を作っている。		現在は、一部の利用者様のみだが、今後は全利用者様が行けるようにしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	自ら電話を掛けたい希望があれば、自室にホームの子機を持っていき、ゆっくりはなしが出来るように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族などの訪問の時は、本人の居室で、ゆっくり過ごしてもらえるように、椅子の貸し出しやホームの応接室を利用してもらうなどいつでも訪問して頂けるような環境作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	一人一人の身体状況を把握し、身体拘束をしないケアに管理者と共に取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	ホームの玄関は、電子錠になっているが、日中は鍵を掛けず、入居生活が送れるように、配慮している。(安全な生活が出来るように考慮し、夜間帯のみ外部者が来ないよう施錠している。)		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>利用者の安全確認</p> <p>67 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。</p>	<p>昼夜を通して、入所者の所在を把握し、安全に過ごしてもらえる様に努力している。</p>		
<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>68 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。</p>	<p>日常生活に必要な物でも、注意が必要な物は適時保管管理している。</p>		
<p>事故防止のための取り組み</p> <p>69 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。</p>	<p>インシデント報告書、事故報告書を活用し、ホーム全体または、各ユニットに事故防止に取り組むように、周知し、取り組んでいる。</p>		
<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>70 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。</p>	<p>急変や事故に、対応出来る様に、管理者・看護師への連絡体制を整え、報告し、対応している。また、普通救命救急を2年ごとに確認する為にも実施していく予定。</p>		<p>新しく、入職したスタッフにも受けてもらうようにする。</p>
<p>災害対策</p> <p>71 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。</p>	<p>避難訓練を年2回実施するとともに、消火器使用方法や火災警報器などの取り扱い方法の訓練をし、非常口の確認などを自主的に点検している。</p>		<p>今後、近隣の町内会に協力を得られるように働きかけていきたい。</p>
<p>リスク対応に関する家族との話し合い</p> <p>72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。</p>	<p>一人一人に合わせた、安全対策を取りながら、生活を送ってもらえるように、家族などにも説明、確認しながら、業務を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	利用者の日頃の状態を把握し、その変化に気付いたときは、必ず、バイタルチェックを行い、管理者・看護師に報告し、必要に応じて、担当医に連絡して対応している。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方薬の変更、用法、用量の変更時は、職員全体にわかるよう、記録で報告し、確認出来るようにしている。また、御家族にも説明を行っている。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	排便コントロールの為に、乳製品の工夫や寒天ゼリーなどを使用して、食品を工夫している。また、水分量の確保、運動、トイレに座るなど、個々の状態に応じて工夫するよう努めている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	個々の方法であった声かけや実施を行っている。また、義歯洗浄や介助のみでなく、食事摂取状況なども観察しながら、口腔内の状態を把握し、情報の共有を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分確保が出来るように、個々の嗜好に合わせた、飲み物を考えて、入居者の身体状況(心疾患など)を考慮し、職員間で共有できるように、個別の水分チェックを実施している。		栄養管理に関する勉強会を管理栄養士等に依頼し勉強会を開催する予定。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染対策に対するマニュアルを作成し、感染した場合にも対応マニュアル、フローチャートでスタッフが理解できるようにファイルして実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所周りの調理器具やふきん類は毎日清潔を保つよう漂白、洗濯し、冷蔵庫内は随時拭き清潔を保ち食材の賞味期限のチェックを行っている。また、台所に衛生管理マニュアルの掲示をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	季節感を味わえるように、花をプランターで飾ったりして明るい雰囲気作りを作るように心掛けている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間や食堂に季節感が味わえるように花を飾ったり、置物を置いたりして工夫している。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	二階の共有スペースの事務所に畳を敷きテーブル、椅子等を設置し自由に出入りができつるげる環境作りに努めている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	住み慣れた家にあった物(壁飾り、置物、写真など)を置き、自分の居室でゆっくり過ごしてもらえるような生活環境作りに努めている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	共有部分の空間の窓を開け換気を行ったりして、外気温や天候に応じて温度調整をこまめに行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手すり、トイレ等住環境を整える視点で環境整備に努めている。		その都度、入居者様の状態に合わせた対応をしていく。
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	失敗や混乱、不安を防ぐ為にトイレや居室に目印や表札を付け工夫している。又、失敗や不安があった場合は何が原因かスタッフ間でも話し合い解決するように努めている。		
87 建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	敷地内に菜園を作り、野菜や花を植え、季節の野菜や花を観賞したり収穫したりする等、外を眺める楽しみを作って工夫している。		

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある <input checked="" type="radio"/> 毎日ある <input type="radio"/> 数日に1回程度ある <input type="radio"/> たまにある <input type="radio"/> ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input checked="" type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている <input type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input checked="" type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者 <input type="radio"/> 利用者の2 / 3くらい <input type="radio"/> 利用者の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族 <input type="radio"/> 家族の2 / 3くらい <input type="radio"/> 家族の1 / 3くらい <input type="radio"/> ほとんどできていない

. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
96	<p>通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている</p> <p> <input type="radio"/> ほぼ毎日のように  <input checked="" type="radio"/> 数日に1回程度  <input type="radio"/> たまに  <input type="radio"/> ほとんどない </p>
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p> <input checked="" type="radio"/> 大いに増えている  <input type="radio"/> 少しずつ増えている  <input type="radio"/> あまり増えていない  <input type="radio"/> 全くいない </p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての職員が  <input type="radio"/> 職員の2/3くらいが  <input type="radio"/> 職員の1/3くらいが  <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての利用者が  <input type="radio"/> 利用者の2/3くらいが  <input type="radio"/> 利用者の1/3くらいが  <input type="radio"/> ほとんどいない </p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p> <input checked="" type="radio"/> ほぼ全ての家族等が  <input type="radio"/> 家族等の2/3くらいが  <input type="radio"/> 家族等の1/3くらいが  <input type="radio"/> ほとんどいない </p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

法人の母体が病院で、当グループホームも裏に位置しているので、体調不良時等の受診には速やかな対応ができています。又、医療連携体制も整っており、日常の健康管理も看護師の協力で行う事が出来ている。

開設時より利用者様の生活歴を知る事ができ、自立支援に向けて少しずつ取り組んでいる。